

英英辞典の定義における冠詞の使用について： “an/the act of V-ing” の場合

Use of articles in dictionary definitions: the case of “*an/the act of V-ing*”

日 木 満

1. はじめに

英英辞典が名詞を定義する際にしばしば用いるパターンに ‘act of V(erb)-ing’ (「～する行為」), ‘process of V-ing’ (「～する過程」), ‘state of V-ing’ (「～する状態」) などがある。例えば、Longman Advanced American Dictionary でいくつか名詞を引くと、次のように定義 (一部) している。(定義の前の番号は語義番号を示す。番号がない場合は語義が一つの場合のみ。下線は筆者。)

- [1] ‘request’ = 1. an act of asking for something politely or formally
- [2] ‘employment’ = 1. the act of paying someone to work for you
- [3] ‘check’ = 2. a process of finding out if something is safe, correct, true, or in the condition it should be
- [4] ‘conviction’ = 4. the process of proving that someone is guilty in a court of law
- [5] ‘confusion’ = 1. a state of not understanding what is happening or what something means because it is not clear
- [6] ‘oversupply’ = the state of having more of a particular product than you need or can sell

ここで注目したい点はそれぞれの head noun の act, process, state と共起している冠詞である。[1][2] では同じ ‘act of V-ing’ でも [1] では不定冠詞 an が、[2] では定冠詞 the が共起している。[3][4] では ‘process of V-ing’ で、[5][6] では ‘state of V-ing’ で同様の違いが見られる。一体この冠詞の違いは何に起因するのか。これらのパターンでは head noun は of V-ing で修飾・説明されることによって何をする行為 (過程・状態) かが特定され、定冠詞が用いられる環境ではないのか。なぜ、不定冠詞の場合があるのか。

冠詞に関する先行研究は多く、さまざまな用法について詳細な説明をみることができる (Berry, 1993; Quirk, Greenbaum, Leech & Svartvik, 1985; 織田 1982, 2002; 熊山 1985; 正保 1996; 他多数)。head noun が of-句で後置修飾されているからといって、いつでも head noun に定冠詞がつくとは限らないという指摘もすでに多くによってなされている。しかし、その場合でも、肝心の「定冠詞がつくとは限らない環境」の実体となるとまだ不明確な点も多く、研究の余地があるように思われる。本稿が取り上げる N of V-ing のパターンはその具体例のひとつで、上記 [1]-[6] のように、同じパターンが辞書の定義の冒頭部で使用されているという状況でありながら、冠詞が使い分け

られているという事実をうまく説明・予測できる段階にはいたっていないのではないかと考える。そこで、本研究ではこの疑問解明への一歩としてN of V-ingのパターンの中から、‘(an/the) act of V-ing’ に的を絞り、次の2点を研究課題として掲げたい。

- (1) 英英辞典の定義パターン[__ act of V-ing]におけるactと共起する冠詞（以下、略して「actの冠詞」と呼ぶ）の使い分けの実態を調べること。
- (2) actの冠詞の使い分けに関与していると思われる要因候補を検討すること。

以下、セクション2で問題のactの冠詞の使い分けについて先行研究からどのような示唆が得られるかを概観したあと、セクション3で本稿が分析対象とした辞書データの収集方法を述べる。セクション4では、辞書データでのactの冠詞の実態についてまとめ、セクション5では、「可算性」と「V-ing」の2つの要因候補がactの冠詞の使い分けに関与しているかを検証する。セクション6で本稿の検証結果のまとめと今後の検討課題を明らかにしたい。

2. 先行研究

冠詞の選択について、どの先行研究もがまず最初に指摘する点は、問題の名詞の（その言語環境での）語義の可算性を知る重要性であろう。Countable ([C]) かUncountable ([U]) によって、冠詞の選択可能性が異なるからである。本研究の場合、それは [__ act of V-ing] という環境におけるactの可算性を知ることになる。そこで、Longman Advanced American Dictionaryで問題のactを引くと [C] ということがわかる。[C] であれば、たとえば、Berry (1993) によれば冠詞の選択は次のような制約を受けることになる。

... count nouns are used to refer to things which can be counted, and so they have both a singular and a plural form. In the singular, you have to use them with the indefinite article, the indefinite article, or another determiner. (...) If no other determiner is appropriate, you use the indefinite article. You cannot normally use a singular count noun without a determiner. (p. 6)

冠詞以外のdeterminersを無視すると、問題の名詞actはsingularであるので、定冠詞か不定冠詞のどちらかを必ず使わなければならないということになる。つまり、the act of V-ingかan act of V-ingのどちらかになるということになる。ここまでは容易なのだが、問題はその後の定冠詞か不定冠詞の選択である。

定冠詞を使う状況はどのようなときか。例えば、Quirk, Greenbaum, Leech & Svartvik (1985: 265-272)はuses of the definite articleとして、次の8つの状況を挙げている。（斜字体は例文。下線は筆者）

- (a) Immediate situation

The roses are very beautiful. [said in a garden]

- (b) Larger situation (general knowledge)

The Prime Minister

- (c) Anaphoric reference: direct

John bought a TV and a video recorder, but he returned the video recorder.

- (d) Anaphoric reference: indirect

John bought a bicycle, but when he rode it one of the wheels came off.

- (e) Cataphoric reference

*The President of Mexico is to visit China.**The girls sitting over there are my cousins.**The wines of France are among the best in the world.**The wines that France produces are among the best in the world.*

- (f) Sporadic reference

Did you hear the ten o'clock news?

- (g) The 'logical' use of
- the*

When is the first flight to Chicago tomorrow?

- (h) The use of
- the*
- with reference to body parts

Mary banged herself on the forehead.

Quirk et. al. (1985: 281-285)はこの他にも総称用法 (e.g., The tiger is becoming almost extinct.) としての定冠詞の使用に言及があるが、本稿のthe act of V-ingにおけるtheは総称用法ではないと思われるので、ここでは省略する。上の(a)から(h)の中で本稿が問題にしている環境 [__ act of V-ing] における定冠詞の使用に関連していると思われるのは(e)のcataphoric referenceのみである。この点について、Quirk, et. al (1985)は次のように説明している。

By the CATAPHORIC use of *the* may be understood the use of the definite article in a context where what follows the head noun, rather than what precedes it, enables us to pinpoint the reference uniquely. (...) In practice, however, the cataphoric use of the definite article is limited to cases where the modification of the noun phrase restricts the reference of the noun, so that its referent is, for the purpose of the discourse, uniquely defined. (p. 268) [下線は筆者]

要するに、head nounの後置修飾が“restricts the reference of the noun”する場合に限り定冠詞を用いるということだが、実際に、どのようなときに後置修飾がその名詞の照応を限定して（従って定冠詞を必要とし）、どのようなときには限定していないのか（従って不定冠詞を必要とするのか）、の判断は容易でない場合もある。例えば、本稿冒頭の[1][2]に立ち戻ってみた場合、Quirk et. al. 流の説明に従えば、それぞれのof以下の修飾は[2]の“__ act of paying someone to work for you”ではactの照応を限定しているため定冠詞が使われていて、[1]の“__ act of asking

for something politely or formal” では限定していないので、定冠詞は用いられないということになる。しかし、筆者にはどちらのof V-ingもその行為が何をする行為なのかを明らかにしているという点では、head nounのactを限定しているように見え、[2]だけがcataphoric referenceの定冠詞を必要とする理由はわからない。

ちなみに、Quirk, et. al (1985)は上のcataphoric referenceの説明に続いて、後置修飾がある場合でもhead nounに定冠詞だけでなく不定冠詞も使われる可能性にも言及し、定冠詞と不定冠詞の両方の可能性がある場合には定冠詞の方([7])はcataphoric referenceではなくanaphoric referenceになると説明している。以下はその例として挙げられたペアである。

[7] *The bicycle John bought has been stolen.* [assumes unique reference; cf: John's bicycle]

[8] *A bicycle John bought has been stolen.* [cf: a bicycle of John's]

確かに、[7]と[8]の解釈の違いの説明としては妥当と思われる。しかし、問題の[1]と[2]は辞書の定義という設定で[1]の‘request’も[2]の‘employment’も語義番号は1であるので、それぞれの名詞の一番最初の定義であり、anaphoric referenceの土台となる前の文脈はないことになり、一方だけが、anaphoric referenceになる可能性はない。したがって、仮に、[2]がcataphoric referenceの定冠詞であったとしても、なぜ[1]に定冠詞ではなく不定冠詞が用いられているかという疑問は残るように思われる。

定冠詞の使用を促すとされる、cataphoric referenceのさまざまな後置修飾の中で、本稿と関連するのはof-句の場合であるが、N1 of N2のパターンにおけるN1とN2の関係は複雑で、2つのNの意味関係は多様である。N1の冠詞との関連でN1とN2の意味関係を論じているものにはBerry (1993)があるが、Quirk, et. al (1985)同様、本稿が問題にしているN of V-ing (N2の部分が動名詞)のパターンは触れられていない¹。

N of Nの中でも特にN of V-ingに限定してとなると、先行研究でも言及しているのは多くはない。筆者が気づいた範囲でいうと、まず、熊山(1985:302)がまさに本稿の研究対象と同じ名詞のactを用いた次の例を挙げている²。(下線は筆者)

[9] He was caught in the act of shoplifting some jewelry.

[10] He was in the act of stealing a car when the police drove by.

しかし、残念ながら、an act of V-ingとの対比におけるこのパターンにおける定冠詞と不定冠詞の言及はなされていない³。

正保(1996)はhead nounはactではないが、of V-ingの例文を用い、head nounの冠詞の選択について言及している。Longman Dictionary of Current English (LDCE)から次の例文を引用し、

[11] His illness is a/the result of eating contaminated food.

不定冠詞と定冠詞の違いについて以下のように説明している。

彼の病気は汚染された食物を食べた結果だとうい意味であるが、aをつける場合とtheの場合で意味が同じというはずはない。aであれば、「その結果の1つ」であり、theであれば「そ

の結果が彼の病気である」として原因と結果が直結しているという書き方である。theをつけたほうが断定的な言い方である。(p. 46)

確かに、[1]はN of V-ingのパターンであるし、この場合の不定冠詞と定冠詞の違いの説明は明快で妥当なものだと思われる。しかし、この説明がan/the act of V-ingにおける不定冠詞と定冠詞の違いの説明に適用できるか、と考えると少なくとも筆者には定かではなかった。そもそも、同氏の上記の説明は、causeとresultという2つの名詞につける不定冠詞と定冠詞冠詞の使い分けの議論という文脈の中で行われているもので、はたしてこのresult, causeの説明がan/the act of V-ingをも説明しようという主張なのかどうかは不明である。いずれにせよ、再び、[1][2]に戻って、a result of Nとthe result of Nの違いが[1]のan act of V-ingと[2]のthe act of V-ingの冠詞の違いを説明できるか考えてみると、result, causeの場合と比べると、actの場合は違いがわかりにくいという印象を筆者はもった。[1]の「丁寧に依頼する行為」と[2]の「人を雇用する行為」という定義において、[2]の方(だけ)が断定的とは感じられなかったし、依頼にせよ、雇用にせよ、複数の依頼行為や雇用行為は考えられるのではないかとも思えた。result, causeの場合とactの場合の違いが何に起因するかと内省すると、actとof V-ingの関係は同格の関係にあるのに対し、result, causeの場合はof句との関係は同格の関係にはないのではないかと考えたが、仮にそうだとすると、それで問題の[1][2]での冠詞の使い分けが説明できるものではない。

以上、先行研究の概観から、問題のact of V-ingのパターンにおいては、actの冠詞は定冠詞か不定冠詞のどちらかに限定されるものの、どちらかについては、疑問が残る結果となり、使い分けの実態を調べることになった。

3. 辞書データ

分析データの収集には、後述の条件つき検索(絞込み)が可能で、且つ、検索結果の保存が容易であるなどの理由から、Longman Advanced American DictionaryのCD版(以下、LAADと略す)を用い、各種の絞込みを経て最終的に80件の“(an/the ...) act of V-ing”で定義が始まる名詞語義を分析対象とした(以下、「LAADデータ」と呼ぶ)。

LAADデータに至るまでのデータの絞り込みは以下の手順で行った。

まず、LAADのADVANCED SEARCH上で以下のような条件をつけて、AND検索を用い検索語句入力欄に‘act of’と入力して、検索した(filtered search)。

- 「定義」(SEARCH IN)フィルターで‘DEFINITION’をチェック)
- 「書き言葉で最も頻度の高い3000語」(FREQUENCY)フィルターで‘3000 MOST FREQUENT WRITTEN WORDS’をチェック⁴⁾)
- 「話し言葉で最も頻度の高い3000語」(FREQUENCY)フィルターで‘3000 MOST FREQUENT SPOKEN WORDS’をチェック)
- 「名詞」(PART OF SPEECH)フィルターで‘nouns’をチェック)

この検索の結果、LAADに収録されているテキスト情報の中から、書き言葉でも話し言葉でも最も頻度が高い3000語のグループに属する単語の内から、名詞に限定し、その語義の定義にactとofを含むものを検索したことになる。この検索のヒット数は103件となった。

しかし、この103の語義（および[C][U]などの可算性情報）に目を通してみると、本稿の分析データとしては不適切、もしくは望ましくないと思われるものが含まれていたため、それらを除外することとした。除外した語義の内訳は以下の通りである⁵。

1. 確かにその定義の中にactとofは含まれているが、本稿で問題にしている‘act of’とは関係のないもの（1件）。(theater, theatre 2b = the work of acting in, writing, or organizing plays)。
2. ‘the act or process of ...,’ ‘the act or activity of ...,’ のように、‘act’ と ‘of’ の間に他の語が入っているもの（7件）。
3. 問題の‘(an/the) act of’が定義の冒頭にないもの（8件）。除外の理由は、‘(an/the) act of’が定義の冒頭に出現した場合と冒頭以外に出現した場合とでは冠詞の使い方に違いがでてくる可能性があるという点と、冒頭に出現した場合が圧倒的多数であったという点から、今回の考察ではact ofがよく用いられる「冒頭に出現」という環境に限定した方が、冠詞選択の要因を特定しやすいと考えたためである。
4. 可算性（[C][U]など）が明記されていないもの（7件）。後述するように、本稿では定義におけるactと共起する冠詞の選択とその語義の可算性との相関関係を考察するので、可算性は必須の情報になるため、その情報がないものは除外することにした。

以上の絞込みの結果、103の語義から、計23の語義を除外することになり、最終的に本稿で分析の対象とするLAADデータは表1に列挙した80の語義で構成されることとなった。（表の最左欄の#は便宜上つけたLAADデータの通し番号で、以下で個別のデータを言及する際に用いる。）

表1：LAADデータ（アルファベット順）

#	名詞	語義番号	可算性	定義
1	addition	2	[U]	the act of adding something to something else:
2	administration	4	[U]	the act of administering a test, law etc. [+ of]:
3	application (2/2)	4a)	[C,U]	PUT STH ON STH (注1) the act of putting something such as paint, liquid, medicine etc. onto a surface [+ of]:
4	argument	3	[U]	the act of disagreeing or questioning something:
5	assignment	2	[U]	the act of giving people particular jobs to do:
6	attack 1 (1/2)	1	[C,U]	IN A WAR the act of using weapons against an enemy in a war:
7	attack 1 (2/2)	2	[C]	VIOLENCE AGAINST SB an act of deliberately using violence against someone:
8	board 1	10	[C usually plural]	BASKETBALL INFORMAL an act of REBOUNDing1 (3) the ball in a game of basketball
9	breath	1b)	[singular, U]	the act of breathing air into your lungs, or the amount of air that you breathe:

10	camp 1	5	[U]	the act of behaving in a silly, unnatural way and expressing too much emotion when you are acting in a movie, television program, or play:
11	challenge1	2	[C]	NOT RIGHT OR LEGAL the act of questioning whether something is right, fair, or legal [+ to]:
12	charge1	9	[C]	BASKETBALL an act of running into an opposing player while you have the ball, which results in a FOUL and the other team being given the ball:
13	check2	12	[C]	SPORTS an act of pushing another player very hard in HOCKEY
14	choice1	4	[C]	ACT OF CHOOSING the act of choosing something:
15	collection (1/4)	2	[U]	BRINGING TOGETHER the act of bringing together things of the same type from different places to form a group:
16	collection (2/4)	4	[C,U]	TAKING STH AWAY the act of taking something from a place, especially when this is done regularly:
17	collection (3/4)	5a)	[C]	MONEY the act of asking for money from people for a particular purpose:
18	collection (4/4)	5b)	[U]	the act of obtaining money that is owed to you:
19	cut 2	3a)	[usually singular]	HAIR INFORMAL the act of cutting someone's hair:
20	dance 2	3	[C]	an act of dancing to one piece of music:
21	decision	3	[U]	the act of deciding something:
22	discussion	1	[C,U]	the act of discussing something, or a conversation in which people discuss something [have a discussion (about sth)]:
23	division	1	[C,U]	SEPARATION the act of separating something into two or more parts or groups, or the way that these parts are separated or shared [+ of]:
24	drive 2 (1/2)	7	[C]	BASEBALL/TENNIS ETC an act of hitting a ball hard, especially in baseball, tennis, or GOLF:
25	drive 2 (2/2)	9	[C]	ANIMALS an act of bringing animals such as cows or sheep together and making them move in a particular direction:
26	drop 2	9	[C]	DELIVER an act of dropping or leaving something, such as food or medical supplies, especially from an airplane:
27	employment	1	[U]	the act of paying someone to work for you [+ of]:
28	exchange 1 (1/3)	1	[C,U]	GIVING/RECEIVING the act of giving someone one thing and receiving something else from them at the same time [+ of]:
29	exchange 1 (2/3)	2	[C,U]	STH YOU BUY the act of giving something you have bought back to the store where you bought it, for example because it does not work, fit etc., and taking something else instead:
30	fall 2	8	[C]	SPORTS an act of forcing your opponent onto the ground in WRESTLING or JUDO
31	fight 2 (1/2)	1	[C]	HIT an act of fighting in which two people or groups hit, push etc. each other
32	fight 2 (2/2)	5	[C]	SPORTS an act of fighting as a sport:
33	fire 1	4	[U]	SHOOTING an act of shooting, especially of many guns at the same time:
34	flight (1/2)	3	[U]	FLYING the act of flying through the air:
35	flight (2/2)	5	[U]	ESCAPE the act of avoiding a dangerous or difficult situation by leaving or escaping [+ from]:
36	impression	3	[C]	the act of copying the speech or behavior of a famous person in order to make people laugh [+ of]:
37	issue 1	8	[U]	ACT OF GIVING STH the act of officially giving someone something to use:
38	loan 1	3	[U]	the act of lending something [+ of]:
39	location	3	[U]	the act of locating something
40	look 2 (1/2)	1	[C usually singular]	LOOKING AT STH an act of looking at something:
41	look 2 (1/2)	2	[C]	CONSIDERING STH an act of reading something quickly or considering it, especially in order to decide what to do:

42	move 2	7	[C]	GAMES an act of changing the position of one of the objects in a game such as CHESS, or the time when a particular player does this:
43	movement (1/2)	2	[C,U]	POSITION/PLACE an act of changing position or going from one place to another:
44	movement (2/2)	7	[C]	BODY WASTE FORMAL an act of getting rid of waste matter from the BOWELS
45	organization	2	[U]	the act of planning and arranging things effectively:
46	pass 2 (1/2)	3	[C]	SPORTS a single act of kicking, throwing, or hitting a ball etc. to another member of your team:
47	pass 2 (2/2)	6 b)	[C]	MOVEMENT PAST an act of moving past or over something:
48	payment	2	[U]	the act of paying:
49	performance	1a)	[C]	an act of performing a play, piece of music etc. [+ of]:
50	performance	5	[U]	the act of doing a piece of work, duty etc.:
51	performance	6	a performance	a performance SPOKEN, DISAPPROVING an act of behaving in a way that is too loud or attracts too much attention:
52	prayer	2	[U]	the act of praying, or the regular habit of praying:
53	production (2/2)	5	[U]	the act of showing something
54	proposal (2/2)	2	[C]	the act of asking someone to marry you:
55	reading	6	[singular]	ACT OF READING STH the act of reading something:
56	recognition (1/3)	1	[U]	the act of recognizing someone or something:
57	recognition (2/3)	2	[singular, U]	the act of realizing and accepting that something is true or important [+ of]:
58	recognition (2/3)	4	[U]	the act of officially accepting that an organization, government, document etc. has legal or official authority:
59	reference	3	[C,U]	the act of looking at something for information, or the book, magazine etc. you get the information from:
60	release 2 (1/4)	1	[singular, U]	FROM PRISON the act of allowing someone to go free or being allowed to go free:
61	release 2 (4/4)	5	[U]	CHEMICALS the act of letting a chemical, gas etc. flow out of its usual container:
62	request 1	1	[C]	an act of asking for something politely or formally [+ for]:
63	retirement	1	[C,U]	the act of retiring from your job, or the time when you do this:
64	return 2 (1/2)	1	[singular]	GOING BACK the act of returning from somewhere, or your arrival back in the place where you started from:
65	return 2 (2/2)	3	[U]	GIVING BACK the act of giving, putting, or sending something back:
66	review 1	1	[C,U]	an act of carefully examining and considering a situation or process:
67	sale	1	[C,U]	ACT OF SELLING the act of giving property or other goods to someone in exchange for money:
68	saving	3	[U]	the act of keeping money and adding to it so that you can use it later
69	service 1	12	[C]	SPORTS an act of hitting a ball through the air in order to start a game, for example in tennis
70	set 2	8	[singular]	HAIR an act of arranging your hair in a particular style when it is wet
71	sight 1	2	[singular, U]	ACT OF SEEING the act of seeing something [+ of]:
72	smoke 1	3	[C usually singular]	INFORMAL an act of smoking a cigarette etc.:
73	society	5	[U]	WITH OTHER PEOPLE FORMAL the act of being together with other people, or the people you are together with:
74	suggestion	3	[U]	the act of telling someone your idea about what they should do:
75	thought 2	2	[U]	ACT OF THINKING the act of thinking:
76	trip 1	4	[C]	an act of falling as a result of hitting something with your foot
77	turn 2	5	[C]	ACT OF TURNING STH the act of turning something completely around a central point:

78	union	2	[singular, U]	FORMAL the act of joining two or more things together, or the state of being joined together [+ with]:
79	use 2	2	[U]	the act of using something, or the amount that is used [+ of]:
80	work 2	5	[U]	USEFUL ACTIVITY the act of doing something that needs to be done or that you want to do, or the time and effort needed to do it:

注1：#3のPUT STH ON STHのように定義の直前に大文字で書かれものはLAADがsignpostsと呼んでいるもので、多義語の場合に多くの定義の中からより速く求めている定義を探し当てられるように、詳しい定義の前に、同義語や簡潔な定義などを示したものである⁴。

4. “actの冠詞”の使い分け

まず、actの冠詞の冠詞別頻度をみると、不定冠詞an act ofが27件（ただし、#46 a single act ofを1件含む）、定冠詞the act ofが53件であった。無冠詞∅ act ofは1件もなく、不定冠詞か定冠詞のどちらかが必ず共起していたことになる。ちなみに、冠詞とactの間に形容詞が出現していた例は、#46の1件のみであった。一方、act ofの後の部分に注目すると、80件すべてにおいて動名詞（V-ing）であった。したがって、問題のact ofの前後の環境は表2のようにまとめられる。

表2：act ofの前後の環境

冠詞	パターン	頻度	
不定冠詞	an act of V-ing	26	27
	a single act of V-ing	1	
定冠詞	the act of V-ing	53	
無冠詞	∅ act of V-ing	0	
計		80	

表2から、割合的には不定冠詞が全体の1/3、定冠詞が2/3と、定冠詞の方が不定冠詞の2倍の頻度になっていることがわかる。しかし、不定冠詞が例外的とみなせる程の少なさではないことも明確である。したがって「～する行為」に対応する英文定義においては、不定冠詞と定冠詞のどちらの可能性も十分あるわけで、「(an/the) act of V-ingにおける冠詞選の使い分けに関与している要因は何か」という問いの大前提である冠詞の使い分けが存在していることが確認されたことになるのではないと思われる。

無冠詞が1件もなかった事実は、問題のactという名詞自体がLAADでは[C]となっていることと、[C]の場合は不定冠詞か定冠詞のどちらかが必要になるとの先行研究の指摘を考え合わせると、予測できたことといえる。

なお、上記と同じ条件で、actが複数形の場合（acts of）を検索してみると、該当するものは1件もなかった。頻度の条件をはずした検索でも、該当は1件のみであった。

5. 要因候補の検証

同じact of V-ingという環境であっても、an act of V-ingの場合とthe act of V-ingの場合があることが上で確認できたが、なにがその冠詞の使い分を決定する（もしくは、影響を与える）要因なのか。筆者には2つの要因が候補として浮かんだ。

まず、1つ目は問題の名詞語義（もしくは名詞全体に）に与えられている[C][U]などの可算性の違い（「可算性」）である。この要因候補がでてきた背景には、次のような臆測がある。同じ「～する行為」でも、act of V-ingで定義されている語義の可算性が[C]ならば、それは問題のact（行為）が頻度や種類などの観点から個別化・複数化がしやすいact（行為）なのではないか。逆に、可算性が[U]ならば、個別化・複数化が馴染まないact（行為）なのではないか。そして、そのact（行為）の個別化・複数化のしやすさの違いが、定義におけるan actとthe actの表現形式の違いに反映しているのではないか。つまり、an actの方は、‘an act’ 1, ‘an act’ 2, ‘an act’ 3, …とといった複数（回・種）のactsを背景・前提にしているため、前者のタイプの「～する行為」を定義するのに適している表現形式であるのに対し、the actの方は必ずしもそのような複数性が背後にはないため後者のタイプの「～する行為」を定義するのに適しているのではないか。もし、そうならば、問題の名詞語義に与えられている可算性が[C]の時にはan act of V-ingが、可算性が[U]の時にはthe act of V-ingが、それぞれ用いられているということになる。ちなみに、冒頭にみた[1]の例の‘request’（LAADデータの#62）はan actで定義されていて、その語義に与えられている可算性は[C]であり、[2]の例の‘employment’（LAADデータの#65）はthe actで定義されていて、その可算性は[U]となっていて、上記の臆測どおりということになる。

要因候補の2つ目はact of V-ingのV-ingの違い（「V-ing」）である。この要因がでてきた背景には、次のような一連の希望的臆測があった。つまり、同じact of V-ingでも、an act ofに続くV-ingとthe act ofに続くV-ingではV（動詞）の性格が異なるのではないか、いわば、an act of系の動詞と、the act of系の動詞の2つの異なる動詞のタイプがあって、その動詞の性格・タイプの違いがan act of V-ingとthe act of V-ingのタイプの違いに反映しているのではないか。

以下、順次これらの要因の関与の可能性を検証していく。

5.1 可算性

ここでの関心は、問題の語義の「可算性」と「actの冠詞」の間に、例えば[C]なら不定冠詞（an act of V-ing）で、[U]ならば定冠詞（the act of V-ing）などといった、相関関係が存在するか否かである。

表1を概観すると、使用されている可算性は実にさまざまであることがわかる。[C], [U]という典型的なものから、[singular]のように[C]とも[U]とも分類できない特殊なもの、[C, U]や[singular, U]のように併記されているもの、[C usually singular] [usually singular] [C usually plural]のように通常単数、通常複数とことわり付きのもの、さらには#51 (performance)のように[C] [U]を用いず、“a performance”としていつもこの形で用いることを明記した記述まであり、

計9通りの可算性が使用されている。

表3は、個々の項目ごとに可算性と冠詞の対応関係をまとめたもので、表4はその対応の組み合わせごとの頻度数を示したものである。

表3：可算性とactの冠詞

#	名詞	可算性	actの冠詞
33	fire 1	[U]	an
1	addition	[U]	the
2	administration	[U]	the
4	argument	[U]	the
5	assignment	[U]	the
10	camp 1	[U]	the
15	collection (1/4)	[U]	the
18	collection (4/4)	[U]	the
21	decision	[U]	the
27	employment	[U]	the
34	flight (1/2)	[U]	the
35	flight (2/2)	[U]	the
37	issue 1	[U]	the
38	loan 1	[U]	the
39	location	[U]	the
45	organization	[U]	the
48	payment	[U]	the
50	performance	[U]	the
52	prayer	[U]	the
53	production (2/2)	[U]	the
56	recognition (1/3)	[U]	the
58	recognition (2/3)	[U]	the
61	release 2 (4/4)	[U]	the
65	return 2 (2/2)	[U]	the
68	saving	[U]	the
73	society	[U]	the
74	suggestion	[U]	the
75	thought 2	[U]	the
79	use 2	[U]	the
80	work 2	[U]	the
46	pass 2 (1/2)	[C]	a
7	attack 1 (2/2)	[C]	an
12	charge1	[C]	an
13	check2	[C]	an
20	dance 2	[C]	an
24	drive 2 (1/2)	[C]	an
25	drive 2 (2/2)	[C]	an
26	drop 2	[C]	an
30	fall 2	[C]	an
31	fight 2 (1/2)	[C]	an
32	fight 2 (2/2)	[C]	an
41	look 2 (1/2)	[C]	an
42	move 2	[C]	an
44	movement (2/2)	[C]	an
47	pass 2 (2/2)	[C]	an
49	performance	[C]	an
62	request 1	[C]	an
69	service 1	[C]	an
76	trip 1	[C]	an
11	challenge1	[C]	the
14	choice1	[C]	the
17	collection (3/4)	[C]	the
36	impression	[C]	the
54	proposal (2/2)	[C]	the
77	turn 2	[C]	the
43	movement (1/2)	[C, U]	an
66	review 1	[C, U]	an
3	application (2/2)	[C, U]	the
6	attack 1 (1/2)	[C, U]	the
16	collection (2/4)	[C, U]	the
22	discussion	[C, U]	the
23	division	[C, U]	the
28	exchange 1 (1/3)	[C, U]	the
29	exchange 1 (2/3)	[C, U]	the
59	reference	[C, U]	the
63	retirement	[C, U]	the
67	sale	[C, U]	the
9	breath	[singular, U]	the
57	recognition (2/3)	[singular, U]	the
60	release 2 (1/4)	[singular, U]	the
71	sight 1	[singular, U]	the
78	union	[singular, U]	the
70	set 2	[singular]	an
55	reading	[singular]	the
64	return 2 (1/2)	[singular]	the
40	look 2 (1/2)	[C usually singular]	an
72	smoke 1	[C usually singular]	an
19	cut 2	[usually singular]	the
51	performance	a performance	an
8	board 1	[C usually plural]	an

表 4 : 可算性ごとのactの冠詞頻度

可算性	不定冠詞 (an act of V-ing)	定冠詞 (the act of V-ing)	計
[U]	1	29	30
[C]	19	6	25
[C, U]	2	10	12
[singular, U]	0	5	5
[singular]	1	2	3
[C usually singular]	2	0	2
[usually singular]	0	1	1
a performance	1	0	1
[C usually plural]	1	0	1
計	27	53	80

各可算性ごとの頻度をみると、[U]が最も多く30件、続いて[C]が25件となっていて、典型的な可算性だけあって、この2種が全体の約7割を占めている。次はかなり頻度は下がり[C, U]が12件、その他の可算性6種はいずれも5件以下になっている。

まず、最も高頻度だった可算性の[U] (30件)の内訳をみると、不定冠詞は1件(0.3%)で、他の29件(96.7%)においてはすべて定冠詞が共起している。これは、もし可算性が[U]であれば、その定義はthe act of V-ingで始まっている可能性がかなり高いのではないかと思わせるものである。ただ、ここで不可解なのは、唯一の例外となった項目(#33 fire)である。30件もの[U]表記の項目の中で、なぜこの項目だけが不定冠詞(an act of V-ing)なのか。残念ながら、現時点で筆者はこの疑問に対する答えを持ちあわせていない。参考までに、#33の定義と例文は以下のようである。

#33 fire [U] an act of shooting, especially of many guns at the same time: *• They just heard a car coming and opened fire (= started shooting). • The truck she was in came under fire (= was shot at) as it tried to deliver supplies to the front lines.*

次に多かった可算性は[C] (25件)であるが、[U]とは逆の傾向を示している。つまり、25件中、不定冠詞が19件(76.0%)であるのに対し、定冠詞の共起は6件(24.0%)にすぎない。したがって、傾向としては可算性が[C]ならば、その定義では不定冠詞(an act of V-ing)となる可能性の方が高いのではないかと思わせる。しかし、この不定冠詞寄りの傾向は顕著なものの、では[C]ならば、その定義はいつもan act of V-ingで始まっているかと問われれば、そうとは言えないこともまた明らかである。そうすると、どういうときにan act of V-ingと不定冠詞を用いて定義され、どういうときにthe act of V-ingと定冠詞を用いて定義されるのか、という疑問は特に可算性が[C]のときに大きな意味をもつことになりそうである。

頻度はかなり少なくなるが、3番目に多かった可算性は[C, U] (12件)では、不定冠詞が2件

(16.7%)に対し、定冠詞が10件(83.3%)と定冠詞寄りの傾向を示している。

続く[singular, U]表記はわずか5件のみであったが、その場合例外なく定冠詞が共起していた。

その他の可算性の場合頻度が3以下で、傾向を議論するのは不適切のように思われる。

以上、「可算性」と「actの冠詞」の対応関係をみてきたが、主な可算性であった[U]と[C]では明らかに異なる対応関係が観察された。つまり、頻度から見る限り、可算性が[U]の場合はthe act of V-ingと定冠詞が用いられる可能性が非常に高く、逆に可算性が[C]の場合にはan act of V-ingと不定冠詞が用いられる割合が高いように思われる。

5.2 V-ing

次に[an act of V-ing]パターンのV-ingの部分に注目してみる。前述の通り、LAADデータ80件ではact ofの直後に続く語句はすべてV-ing(動名詞)であった⁸。ここでの関心は、このV-ingの動詞(V)の違いがactの冠詞となんらかの関係があるか否かである。はたして、an act of系の動詞群と、the act of系の動詞群といった2つの異なる動詞のタイプが存在していて、その動詞タイプの違いがan act of V-ingとthe act of V-ingの違いに対応しているのだろうか。何を[・]する[・]行為[・]なのかによって、LAADデータのan act of V-ingとthe act of V-ingの使い分けを予測・説明することは可能なのか。

まず、定義の中で、不定冠詞(an act of V-ing)と定冠詞(the act of V-ing)ごとに、どのようなV-ingが共起しているかをみる。

不定冠詞(an act of V-ing) (27件)と共起しているV-ingをアルファベット順にみると次の24種類であった。(括弧内の数字は出現頻度が複数の場合の頻度を示す。)

[不定冠詞グループ]

arranging; asking for; behaving; bringing; changing (2); dancing; dropping; examining; falling; fighting (2); fighting; forcing; getting rid of; hitting (2); hitting; kicking; looking at; moving; performing; pushing; reading; rebounding; running into; shooting; smoking; using

一方、定冠詞(the act of V-ing) (53件)と共起しているV-ingをアルファベット順にみると次の45種類であった。(括弧内の数字は出現頻度が複数の場合の頻度を示す。)

[定冠詞グループ]

accepting; adding; administering; allowing; asking; asking for; avoiding; behaving; being; breathing; bringing; choosing; copying; cutting; deciding; disagreeing; discussing; doing (2); flying; giving (6); joining; keeping; lending; letting; locating; looking at; obtaining; paying (2); praying; putting; questioning; reading; realizing; recognizing; retiring; returning; seeing; separating; showing; taking; telling; thinking; turning; using (2)

はたして、[不定冠詞グループ]と[定冠詞グループ]とでは、なにかV-ingの種類に違いがある

か。残念ながら、筆者には両グループのV-ing群にこれといった際立った違いを認識することはできなかった。むしろ、目についたのは同じV-ingが両方のグループに出現している例がある点である。具体的には、asking for; behaving; bringing; looking at; reading; usingの6つのV-ingはan act of V-ingとthe act of V-ingのどちらにも使われていた。このことは、少なくともV-ingだけからactと共起する冠詞を予測することはできないことを示唆するものと思われる。

ここで当然疑問に思うのは、“act of asking for (something)”のようにV-ingの部分までもが同じ“act of V-ing”でも、actの冠詞が不定冠詞のときと定冠詞のときがあるのはなぜか、である。問題のV-ingを含む6組の項目のそれぞれの定義と例文は以下の通りである（V-ingの部分のアルファベット順）。

1 組目 (V-ing = asking for)

- #62 request [C] **an act of asking for** something politely or formally [+ for]: • *They have made an urgent request for international aid. [+ that]: • Anderson repeated his request that we postpone the meeting.: • The study was done at the request of the Chairman (= because the Chairman asked for it). • Further details will be sent on request (= when you ask for it). • There were no flowers at the funeral, by request (= because they asked specially not to have flowers). • any requests? (= used to ask people if they want anything)*
- #17 collection [C] **MONEY the act of asking for** money from people for a particular purpose: • *Most Alcoholic Anonymous groups take up a collection at meetings to cover expenses.*

2 組目 (V-ing = 'behaving')

- #51 performance [a performance] **SPOKEN, DISAPPROVING an act of behaving** in a way that is too loud or attracts too much attention: • *She put on quite a performance.*
- #10 camp [U] **the act of behaving** in a silly, unnatural way and expressing too much emotion when you are acting in a movie, television program, or play: • *If you like camp, you'll probably enjoy the movie.*

3 組目 (V-ing = 'bringing')

- #25 drive [C] **ANIMALS an act of bringing** animals such as cows or sheep together and making them move in a particular direction: • *Brown was hired to lead a cattle drive north to the Canadian border.*
- #15 collection [U] **BRINGING TOGETHER the act of bringing** together things of the same type from different places to form a group: • *The collection of data is not always something that a researcher can control.*

4 組目 (V-ing = 'looking at')

- #40 look [C usually singular] **LOOKING AT STH an act of looking at** something: • *Wow! Take a look at that moon. It's huge! • If you take a good look (= look carefully) I think you'll see it's a raccoon. • I'm not sure. I didn't get a look at his face. • Take a look around and see if you like the place.*
- #59 reference [C,U] **the act of looking at** something for information, or the book, magazine etc. you get the information from: • *One shelf was filled with reference works (= reference books). • Microfilm copies will be kept for future reference (= so that they can be looked at in the future).*

5 組目 (V-ing = 'reading')

- #41 look [C] CONSIDERING STH **an act of reading** something quickly or considering it, especially in order to decide what to do: *• Let me take a look at this tonight, and I'll discuss it with you tomorrow.*
- #55 reading [singular] ACT OF READING STH **the act of reading** something: *• Even a casual reading of the text gives you an idea of the theme.*

6 組目 (V-ing = 'using')

- #7 attack [C] VIOLENCE AGAINST SB **an act of** deliberately using violence against someone: *• She was left unconscious after an attack in her own home. [+ on]: • Gibson was charged with an attack on his former girlfriend.*
- #79 use [U] **the act of using** something, or the amount that is used [+ of]: *• The military has agreed to allow public use of the land. • Increased use of fertilizers has led to water pollution.*
- #6 attack [C,U] IN A WAR **the act of using** weapons against an enemy in a war: *• Their home was damaged in the attack. [+ on]: • the attack on Pearl Harbor • The city is under attack (= being attacked). • Rebel forces launched an attack (= started an attack) late Sunday night.*

1 組目 (#62, #17) は中でも特に興味深い組である。なぜなら、どちらも V-ing が asking for で同じであるというだけでなく、可算性も [C] で同じであり、本稿が着目した 2 つの要因候補をことごとく否定するデータであるからである。つまり、この 1 組目はこれだけで、可算性からも、V-ing からも、act の冠詞を予測することはできないことを示唆する材料になりうる。可算性の違いでも、V-ing の違いでもないとする、#62 (**an act of asking for something**) と #17 (**the act of asking for something**) の冠詞の違いは何に起因するのか。定義全体を比較してみると、前者は「丁寧・正式になにかを求める行為」であり、後者は「ある目的のためにお金を求める行為」となり、丁寧・正式にという求め方について言及があるのは前者だけで、求めるものがお金に限定されている点と求める目的についての記述があるのは後者だけ、という違いがあることはある。しかし、これらの違いが act の冠詞の違いに影響を与えているのであろうか。5 組目 (#41, #55) に目を移すと、求める目的の記述の有無においては、1 組目とは逆のパターンになっている。つまり、1 組目も 5 組目も目的について言及があるのは片方だけだが、1 組目では言及がある方 (#17) に **the act** が用いられ、5 組目では、言及がある方 (#41) に **an act** が用いられている。このことから、少なくとも目的についての記述の有無は act の冠詞の使い分けを説明できるものではないように思われる。その他の違いについても、明らかな反例はないものの、なにかを丁寧・正式に求めれば **an act** で、丁寧・正式に求めなければ **the act** になるとは、考えにくいし、求めるものがお金ならば **the act** で、お金以外なら **an act** と考えにくく、どちらも act の冠詞の違いを説明できる要因ではないように思われる。

2 組目から 6 組目は、1 組目と違い、それぞれの組内ではすべて可算性は異なっており、特殊な #51 の [a performance] と #55 の [singular] の場合を除くと、[U] もしくは [U] を含むもの ([C, U])

の場合にはthe act of V-ingで、[C]の場合はan act of V-ingでそれぞれ定義されていて、概ね、上でみた可算性とactの冠詞の対応傾向に準じるようにもみえる。しかし、仮にそうだとした場合、それはあくまでも傾向的なものであり、それぞれの組でのactの冠詞の違いが何に起因するのかを説明するものではない。

以上5.1と5.2でactの冠詞の使い分けに「可算性」と「V-ing」が関与している可能性をみてきたが、[U]とtheの間の関係の可能性を除き、どちらも決定的な要因といえるデータはなかった。要するに、[C]ならばan act ofになるのか、V-ingが‘asking for’ならthe act ofで‘looking for’ならan act ofになるというような単純な対応関係ではないように思われる。

6. まとめと今後の課題

「～する行為」を英語で表現しようとするときに、the act of V-ingと定冠詞を使うべきか、それとも、an act of V-ingと不定冠詞を使うべきか。それが、本研究を始めるきっかけの疑問であった。この疑問解明への一歩として、本稿ではLongman Advanced American Dictionaryからその定義にact of V-ingのパターンを含む名詞語義を80項目選び、そこでの冠詞の使い分けの実態を調べ、さらに、その語義に与えられている[U] (uncountable)、[C] (countable)などの可算性の違い、ならびに、act of V-ingにおけるV-ingの部分の違いが、actの冠詞の使い分けとなんらかの関係がないかを検証してみた。

今回の冠詞の使い分けの実態調査からact of V-ingのパターンでのactの冠詞の出現頻度は、定冠詞が全体の2/3、不定冠詞が全体の1/3という割合であることがわかった。この結果は、定冠詞の方がはるかに多用されている可能性と同時に、不定冠詞の使用も十分ありえることを示すものでもあると解釈できる。

actの冠詞の使い分けと可算性の関連性については、あくまでも限られたデータの中での頻度傾向でしかないが、かなり明らかな偏りが観察された。つまり、可算性表記が[U]の場合にはほぼすべてのケースで定冠詞(the act of V-ing)が用いられていたのに対し、[C]の場合には逆に不定冠詞(an act of V-ing)の方が定冠詞の3倍近くの頻度で用いられていた。この結果は、少なくとも可算性[U]と定冠詞の間に何らかの関連性が存在することを示唆しているように思われる。もしそうならば、theにすべきか、anにすべきかの疑問との関連で言えば、その疑問が問題になる領域はもしかすると、その語義が[U]以外のときに限定されるものかもしれない可能性がでてくることになる。

もう一方の要因候補のV-ingの分析からは、残念ながら、生まれてきたのは新たな疑問だけで、具体的にこの種類のV-ingなら定冠詞（もしくは不定冠詞が）が用いられている、といった、actの冠詞とV-ingの間の特定の相関関係は見いだすことはできなかった。

今回の研究の制約と今後の課題として、以下のような点があげられる。

1. 今回の研究では、LAADのact of V-ingのデータ、しかも比較的高頻度なものに限定、の分析

であり、LAADのすべてのデータを対象にしたときに、また、他の辞書で同様の調査をしたときに、今回のデータから観察されたのと同じような傾向がみられるか、は未知数である。特に、他の辞書との比較研究は、必ずしも同じ語義をact of V-ingを用いて定義してるとは限らないなどの問題があるものの、冠詞使用のばらつきの有無やその度合いを知る上でも興味深い課題であると思う。

2. 今回の研究では数ある定義パターンの中から、act of V-ingのみを対象に行った分析であり、他の定義パターン(process of V-ingやstate of V-ingなど)の場合はどうなのかも、不明である。同じN of V-ingのパターンであっても、head nounが違えば、それと共に起する不定冠詞・定冠詞の頻度割合は異なる可能性は否定できないので、重要な課題の一つであると考え。
3. 今回の研究は辞書データを基にした分析に限られていたため、theを使った場合とanを使った場合の意味の違いや英語としての許容度の違いについての疑問を扱うことができなかった。LAADデータでactの冠詞が不定冠詞だったところに、もし定冠詞を使用したら、また、その逆の場合は、どうなるのか。例えば、[U]でありながら、唯一、不定冠詞が用いられていた項目(#33 fire)の定義は“an act of shooting, especially of many guns at the same time”であったわけだが、もし、これを“the act of shooting, ...”に書き換えたら、その定義はどのような違いを生み出すのか。英語のネイティブスピーカーなら、そのような冠詞の変更に気づくものなのだろうか。さらには、英語のネイティブスピーカーなら、LAADで使用されているactの冠詞を言い当てるのであろうか。これらの疑問に答えるためには、相当数の英語のネイティブスピーカーのさまざまな直感データの収集が不可欠であり、その種の本格的なデータ収集・分析が今後の大きな課題である。

本研究は、英英辞典でいくつかの名詞をひいた際に、その定義の中で、同じact of V-ingというパターンでありながら、なぜ冠詞が違う場合があるのか、という疑問がきっかけとなった。知らない単語の意味を調べるという辞書利用本来の目的の上では、その単語が何を~~する~~行為なのかがわかれば当初の目的は達成されるわけで、an act of V-ingで定義されようが、the act of V-ingで定義されようが、大した支障はないかもしれない。しかし、この類のパターンは、辞書をひくというreceptiveな状況だけでなく、例えば相手が知らない単語を平易な単語で説明するときのようなproductiveな場面でも大変有用な表現パターンである。しかし、書く・話すといったproductiveな場面では、何らかの基準に基づいてactと共に起する冠詞を選択しなければならなくなる。そのときにan act of V-ingを使う意味・理由、the act of V-ingを使う意味・理由がわからなければ、伝えたい内容にあわせてanとtheを意図的に使い分けることはできないわけで、この類のパターンにおける冠詞の使い分けの実態を明らかにし、その使い分けの背後にあると思われる要因を明らかにすることは意義があるものと考え。

参考文献

Berry, R. (1993). *Articles*. London: HarperCollins

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech & J. Svartvik (1985). *A comprehensive grammar of the English language*. London: Longman

Summers, D. (ed.) (2002). *Longman Advanced American Dictionary with CD-ROM*. Harlow: Longman

織田稔 (1982) 『存在の形態と確認---英語冠詞の研究---』 東京：風間書房

織田稔 (2002) 『英語冠詞の世界---英語の「もの」の見方と示し方---』 東京：研究社

熊山晶久 (1985) 『用例中心英語冠詞用法辞典』 東京：大修館

正保富三 (1966) 『英語の冠詞がわかる本』 東京：研究社

注

¹ Berry (1993:30-31)はNouns qualified by an 'of'-phraseという項目をたてて、後置修飾をof-句に限定して、定冠詞が要求される場合には次の2つがあると述べている。

1) the noun involved refers to an action, event, or state and the 'of'-phrase indicates the performer of the action or the thing affected (e.g., : ... following the closure of a Courtaulds factory; Orders should not be cashed after the death of the person)

2) certain nouns which refer to a part or characteristic of something are followed by an 'of'-phrase very frequently, and have unique reference (e.g., ... after the beginning of the tax year; The price of copper fell spectacularly)

² これらは、「定冠詞と形容詞に修飾された名詞」(つまり[the + 普通名詞単数 + 前置詞句]のパターンで用いられる名詞)の例として挙げられている27の名詞の一つとして取り上げられているものである。なぜ定冠詞なのかの説明は、of V-ingに限定しているわけではないが、以下の通りである。

前置詞句が名詞を修飾するとその句は形容詞の働きをするために形容詞句となりますが、被修飾語の名詞は「記述された前置詞句の範囲内における名詞」という意味に限定されるようになります。そのため被修飾語の名詞は拘束性を帯びてきますから、特殊的な名詞となります。このためにtheを必要とします。(p. 302)

この説明は概ねQuirk, et. al (1985)のいうところのcataphoric referenceと同じと思われ、基本的にQuirk, et. al (1985)に関連して指摘した問題は残るのではないかと考える。

³ 不定冠詞an act of N2を用いた例文は、同書の他の箇所(熊山1985:143)で見出すことはできるが、その例文でのN2はV-ingではない。(Robbery is considered to be an act of violence./ Helping the lady across the street was an act of kindness.)

⁴ 頻度についての判断は、Longman独自のアメリカ英語コーパスデータの分析によるもので、次のように説明されている。

This dictionary is organized on the basis of frequency. The most frequent meanings of a word are shown first, and homographs are shown in frequency order. All of our judgments about frequency are made by computer-based analysis of all American English corpus material available to Longman. ...

The dictionary also shows which words are used most frequently in spoken and written English. This information appears at the top of an entry after the part of speech.

この説明からわかるように、頻度データは品詞ごとのものであり、本稿で問題とする語義ごとのものではない。従って、本稿で分析の対象にしたものの中には、かなり専門的で、頻度はかなり低いものを含む可能性がある。

⁵ 残念ながら、筆者には、LAADのADVANCED SEARCH上で、‘act’ と ‘of’ の出現の順番を指定しての検索（つまり、‘act’ が ‘of’ の先に出現しているものに限る検索）や、‘act’ と ‘of’ がその順番で、且つ、その間に他の語の介入がないもの（つまり、‘act of’ が一続きのもの）を検索する方法は不明である。

⁶ LAADはsignpostsについて以下のように説明している。

In entries with many definitions, we have included "Signposts" to help you find the right definition quickly. A signpost is a word or short phrase that guides you to the right meaning. It may be a synonym, a short definition, or the typical subject or object of a verb. Signposts are shown in BOLD RED LETTERS, before the definition, and are written using only the words in the Longman American Defining Vocabulary.

⁷ 該当部分は、hostilityの語義番号3でその定義と例文は以下の通り。

hostilities [plural] FORMAL **acts of** fighting: • *The hostilities in the south appear to be spreading toward the capital.*

⁸ ただし、LAADでの1次検索でヒットした103件のact ofの中には1件だけ、-ingでないものがあった。しかし、それは除外されたため、LAADデータの中には入っていない。